

著者紹介

(執筆順, ①所属・職位, ②主要業績)

三浦まり (みうら・まり)

〔編者〕序章・第8章 (共著)

①上智大学法学部教授

②『さらば、男性政治』岩波書店, 2023年 (第44回石橋湛山賞・第17回平塚らいてう賞受賞)。

『私たちの声を議会へ——代表制民主主義の再生』岩波書店, 2016年。

『ジェンダー・クォータ——世界の女性議員はなぜ増えたのか』(共編著) 明石書店, 2014年。

馬場香織 (ばば・かおり)

第1章

①北海道大学大学院公共政策学連携研究部准教授

②「メキシコの政党システム変容を捉える」『年報政治学』2021- II, 2021年。

『ラテンアメリカの年金政治——制度変容の多国間比較研究』晃洋書房, 2018年。

『ラテンアメリカの市民社会組織——継続と変容』(共編著) アジア経済研究所, 2016年。

杉山知子 (すぎやま・ともこ)

第2章

①愛知学院大学総合政策学部教授

②「米州人権レジームの形成とその変遷——米州人権機構の制度・役割と今後の課題について」『世界の社会福祉年鑑2021 (第21集) 特集 国際人権レジームと社会福祉』旬報社, 2021年。

『ラテンアメリカ——21世紀の社会と女性』(共著) 新評論, 2015年。

『移行期の正義とラテンアメリカの教訓——真実と正義の政治学』北樹出版, 2011年。

村上彩佳 (むらかみ・あやか)

第3章

①専修大学人間科学部専任講師

②『内閣府男女共同参画局推進課・諸外国における政治分野への女性の参画に関する調査研究報告書』2019年。

『フランスの性別クォータ制『パリテ』に関する社会学的研究——女性たちの運動と差異のジレンマに焦点をあてて』大阪大学大学院人間科学研究科博士論文, 2018年。

『男女平等理念が異性愛主義と結びつく危険性——フランス市民の『パリテ』解釈を事例に』『フォーラム現代社会学』第17巻, 2018年。

王 貞月（おう・ていげつ）

第4章

- ①西南学院大学，福岡大学，福岡女子大学，九州大学非常勤講師
- ②「台湾のクォータ制と女性の政治参画」『日本ジェンダー研究』第25号，2022年。
「地方議会の女性議員増加をめざして——日・台統一地方選挙時の比較調査から」
（共著）『アジア女性研究』第29号，2020年。
「地方議会の女性議員増加をめざして——日・台統一地方選挙時の比較調査から」
（共著）KFAW 調査研究報告書 Vol.2019- 1，2020年。

申 琪榮（しん・きよん）

第5章

- ①お茶の水女子大学人間文化創生科学研究科・ジェンダー研究所教授
- ②「世襲政治はどのように再生産されるのか——イエと男性ホモソーシャル・ネットワークに着目して」『経済社会とジェンダー』第8巻，2023年。
『# MeToo の政治学——コリア・フェミニズムの最前線』（監修）大月出版社，2021年。
『ジェンダー・クォータ——世界の女性議員はなぜ増えたのか』（共著）明石書店，2014年。

武田宏子（たけだ・ひろこ）

第6章

- ①名古屋大学大学院法学研究科教授
- ②「『再生産』の危機と国家——現代日本から考える」『日本比較政治学会年報』第25号，2023年。
Routledge Handbook of Contemporary Japan (co-edited), Routledge, 2021.
The Political Economy of Reproduction: Between Nation-State and Everyday Life,
Routledge Curzon, 2005.

遠藤 貢（えんどう・みつぎ）

第7章

- ①東京大学大学院総合文化研究科教授
- ② *African Politics of Survival: Extraversion and Informality in Contemporary World* (co-edited), Langaa RPCIG, 2021.
『紛争が変える国家』（共編）岩波書店，2020年。
『崩壊国家と国際安全保障——ソマリアにみる新たな国家像の誕生』有斐閣，2015年。

庄司 香（しょうじ・かおり）

Column 1

- ①学習院大学法学部教授
- ②「『いま』を考えるアメリカ史」（共著）ミネルヴァ書房，2022年。
Mixed-Member Electoral Systems in Constitutional Context: Taiwan, Japan, and Beyond (co-authored), University of Michigan Press, 2016.

金子智樹 (かねこ・ともき)

第8章 (共著)

①東北大学大学院法学研究科准教授

②『現代日本の新聞と政治——地方紙・全国紙と有権者・政治家』東京大学出版会、2023年。

「日本の新聞の左右論調——1970年～2019年」『選挙研究』第37巻第1号、2021年。

“Estimating Ideal Points of Newspapers from Editorial Texts (co-authored),” *The International Journal of Press/Politics* 26 (3), 2020.

ケネス・盛・マツケルウエイン (けねす・もり・まつけるうえいん) 第8章 (共著)

①東京大学社会科学研究所教授

② “Public Preference for International Law Compliance: Respecting Legal Obligations or Conforming to Common Practices? (co-authored),” *Review of International Organizations* 19, 2023.

『日本国憲法の普遍と特異——その軌跡と定量的考察』千倉書房、2022年 (第44回石橋湛山賞受賞)。

“The Clash of Traditional Values: Opposition to Female Monarchs,” *European Political Science Review* 15(2), 2022.

伊東久美子 (いとう・くみこ)

第9章

①株式会社ライツ・アンド・ブランズ代表取締役社長／法政大学ビジネススクールイノベーション・マネジメント研究科兼任講師

② *Current Perspectives on Asian Women in Leadership Japanese Women in Leadership* (co-authored), Palgrave Macmillan, 2021.

“A Model of Sense-making Process for Adapting New Organizational Settings: Based on Case Study of Executive Leaders in Work Transitions (co-authored),” *Social and Behavioral Sciences* 172, 2015.

「語りとしてのアイデンティティ変容のプロセスモデル——職業上の転換期において、人はどのように新たな組織や仕事に自己を適応させているのか」『日本労働研究雑誌』650, 2014年。

奥山陽子 (おくやま・ようこ)

Column 2

①ウブサラ大学経済学部助教授

② “Essays in Women’s Decision Making” Yale University Ph.D Dissertation, 2020.